第 3 号 / 2024年度

2025年3月31日　通巻692号

VERA

Tokyo Woman's Christian University

SPECIAL FEATURE

東京女子大学卒業式 学長告辞

―東京女子大学の卒業生であるとは―

学長 森本 あんり

東京女子大学

東京女子大学を卒業するみなさんへ

東京女子大学卒業式 学長告辞

―東京女子大学の卒業生であるとは―

学長
森本 あんり
MORIMOTO Anri

みなさんは、本学を卒業したことの意義を、まだ実感してはおられないでしょう。それは、これからの日々が十分に知らせてくれることと思います。けれども、今日わたしは、本学の卒業生であるということの意味を、一つだけお伝えしておきたいと思います。

昨年の夏に本学が全国の新聞や電車の車内広告で展開した「問いプロジェクト」のことは、覚えておられるでしょう。「お淑(しと)やかな東京女子大学にしては、ずいぶん攻めた広告だ」と評判になりました。全体を見渡した客観的な集計結果を見る限り、世間の反応は圧倒的に好意的で、「こんな勉強をした学生がほしい」「自分も大学生に戻ってこんな勉強をしたい」「東女の学生は幸せだ」という声が多く寄せられました。ピーク時にはSNSでのコメントが一日あたり7000件を超えたこともあります。

ただ、このような広告では、内容にかかわらず、かならず否定的な反応が少しは出るものです。否定的な意見には、女子大学に対する差別的な感情が透けて見えるものが目立ちました。「しょせん女子大だから」「どうせたいした教育もしていないだろう」という偏見を前提にしたものです。逆に、そういうコメントを見て、「女子大ヘイト、今知った、ゆるさない」というコメントも出ていました。

世の流れに屈しない

今日、わたしがみなさんにお伝えしたいのは、そういうコメ

ントの中の一つです。東京女子大学に対するネガティブな意見が出される中で、あえて自分が本学の出身であることを名乗り出て、堂々と意見を述べ、自分が書いた卒論や面白かった勉強の中身を紹介する、という人があったのです。そのツイートを受けて、「勇敢な女性だ」と言う人があり、その後ネガティブなコメントは急速になくなってゆきました。

その卒業生がいったいどういう人なのか、詳細は知りません。しかしわたしは、東京女子大学が目指していたのは、こういう卒業生を送り出すことだった、と改めて強く実感いたしました。世間の脅しに負けず、差別に屈しない女性。逆風の中でも、怖れずに立ち上がり、自分の考えをはっきりと言える人。わたしは、この卒業生のことを心から誇りに思います。

もちろん、誰もがいつも、そんな勇気を発揮しなければならない、というわけではありません。できれば、そんな必要のない社会であってほしいと思います。でも、どんな人生を歩むにせよ、人間の生涯にはごく稀に、生涯に1度か2度、そういう瞬間が訪れるものです。そして、そういう瞬間の決断が、世界を少しずつ変えてゆくのです。

ふだんは物静かで、特に何も言わない。めったなことでは声を上げない。でも、そういう人だからこそ、どうしてもここだけは譲れない、という時に語る言葉は、聞く人の心に響くものです。自分の得になることではない。でも、もしここで何も言わなかったら、自分は生涯後悔することになるだろう。

静かな挑戦

それが、創立以来本学が言い伝えてきた“Something”です。今、それが何であるかをはっきり言うことはできない。ただ“Something”としか言えない。でも、ある日ある時、本学の卒業生としての誇りが、いや女性として、人間としての尊厳が、試される時。その時、みなさんの心の奥に蓄えられた何かが大きな力を発揮するのです。

東京女子大学が創立以来目指してきたのは、そういう女性を送り出すことです。世の中の風に流されず、「すべて真実なこと」を追求する人。自分の意見と知性をもった、独立不羈（き）の人。それが、今も変わることのない、本学の静かな挑戦です。

みなさん、卒業おめでとう。

2024年度末 現代教養学部卒業生

卒業者数 828名

学科代表	国際英語学科	**唐崎 千香子**
	人文学科	**土屋 香乃**
	国際社会学科	**小野里 心乃**
	心理・コミュニケーション学科	**川村 美穂**
	数理科学科	**伊藤 愛菜**

2024年度末 大学院修了生

修了者数 博士前期課程：35名
博士後期課程：1名

学びを終えて　学部卒業生のメッセージ

私が私らしく学べる場所

国際英語学科 国際英語専攻

丸山 綺月 MARUYAMA Kirari

留学先とゼミが同じでお世話になった友人と。筆者は右

授業中は日本語と英語が飛び交い、活発なディスカッションやプレゼンテーションが日常的に行われた。留学では異なる立場から物事を捉える力、自信を持って英語で伝える力を養うことができた。不正解を恐れて自分の考えを表現することを控えていた高校時代とは違い、積極的に自分の考えを表現することによって広がる興味や学びに魅せられた４年間だった。卒業後も「私らしさ」を大切にしながら、自分のさらなる可能性を探求していきたい。

哲学の学びを生かして

人文学科 哲学専攻

水澤 華 MIZUSAWA Hana

ゼミの仲間と榊原先生とのご飯会。筆者は左端

入学前は哲学の難解さに不安を感じていたが、少人数の専攻でのびのびと学ぶことができた。４年次からのゼミでは仲間に恵まれ、深く交流しながら意見を交わすことができた。卒業論文では長年考えてきた問いをテーマにしたため、文章に書き起こすことで自身の思考を整理し、人生を振り返る良い機会となった。本専攻で培った物事を根本から問い直す力を生かし、卒業後も自立した人間として活躍していきたい。

考えることの難しさと楽しさ

人文学科 日本文学専攻

下村 澄青 SHIMOMURA Subaru

日本文学専攻教職課程の友人達と。筆者は後列左から２人目

『源氏物語』の演習や国語科教育法の授業を通し、修得した知識や自分の意見を他者に伝えるためにはどうすべきか考える機会を多く得た。なぜこのような表現を用いたのか、他の作品に用例は見られるのかなど、丁寧に作品に向き合う重要さを学び、今まで分かっていると思っていたことは知識のほんの一部に過ぎなかったことを痛感した。学部卒業後も自分の力で考え、言葉にすることを大切にし、充実した毎日を過ごしたい。

自分と向き合えた4年間

人文学科 歴史文化専攻

亀井 安紗 KAMEI Asa

アジア史ゼミの赤木先生と仲間と。筆者は左端

専攻での学びは人生の幅を広げてくれた。オーラル・ヒストリーの講義では、取材を通じて相手の歴史を聞き出す経験をした。会話から相手の歴史を紐解（ひもと）くことは、文献を読む歴史学とは異なり婉曲（えんきょく）的で独特の難しさがあった。しかし、同時に自分の質問によって相手側から聞き出せる話の内容が変化することに興味を持ち、記者になりたいという夢ができた。卒業後は放送局に就職する。多角的な視点で情報収集し、公正な報道を届けたい。

韓国への関心を追求

国際社会学科 国際関係専攻

中山 綾乃 NAKAYAMA Ayano

外務省プログラム（訪韓団）参加で訪れた朝鮮王朝の景福宮にて

大学生活を象徴する出会いの始まりは、2年次に履修した森万佑子先生の朝鮮政治外交史だ。授業では朝鮮の歴史から日韓が共有する過去まで広く学んだ。実際の韓国社会をさらに理解したく、日韓学生団体や外務省訪韓研修へ参加した。そこでは日本社会との違いを多く発見し、実体験に基づく疑問や違和感が生まれた。その際に生じた疑問が今日までの学習意欲へとつながっている。卒業後も日韓関係を考える場に参加し続けたい。

成長を実感できた4年間

国際社会学科 経済学専攻

奥田 万葉 OKUDA Mayo

小西ゼミの仲間と。筆者は前列右から2人目

経済学専攻では、経済学や経営学の視点を通して世の中の動きや社会が抱える諸問題を広く学ぶことができた。また、少人数制でのゼミでは、自分が探究したいことにじっくり向き合う貴重な時間を持つことができた。この4年間で論理的に物事を考える力が身につき、さらに、人に分かりやすく伝える力が磨かれたように思う。緑豊かな美しいキャンパスで学んだ経験を胸に、新たな環境でも成長し続ける人でありたい。

自身の経験を学びに変える

国際社会学科 社会学専攻

竹内 ひな TAKEUCHI Hina

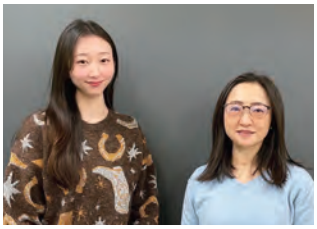
共に学んだゼミの仲間や先生方と。筆者は前列1番右端

周囲の方に支えられつつ、車椅子を使用しながらの学生生活を無事に終えた。ゼミでは関心に応じて文献やデータから問題を考察したり、他のゼミ生との対話から多角的な観点を発見して研究に生かすことができた。卒業論文では「障害者自立生活運動」の経緯を踏まえて障害者の自立生活における問題点を挙げることができ、自身の経験から当事者の問題点を引き出した。卒業後も東女で得た知識や経験を生かして社会で活躍していきたい。

学びを生かして

国際社会学科 コミュニティ構想専攻

泉 里奈 IZUMI Rina



終始適切な助言と丁寧なご指導をいただいたゼミの藤稿先生と。筆者は左

かねてより環境問題に興味があり、コミュニティ構想専攻を選択した。ゼミでは、いつも真摯に向き合ってくださる先生と志の高い仲間をはじめ、個人の興味を尊重しサポートしてくれる土壌に恵まれた。卒業論文は手厚いサポートの下で、沖縄県への現地調査をしながら世界遺産と地域住民の関係性に関する研究を行うことができた。卒業後もこの4年間で培った学びに関する真摯な姿勢を忘れずに、自己研鑽（けんさん）に努めていきたい。

“心”と向き合う日々

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻

大森 愛 OMORI Ai

励まし合ったコミュニケーション専攻の友人と。筆者は左

専攻での学びは知的好奇心が刺激される毎日で、ただただ心理学の勉強が楽しかった。私は編入生で、初めて習う心理統計や実験レポートの執筆についていけるか不安だったが、先生方や周りの学生たちのサポートを受け、勉学に励むことができた。3年次に参加したタイ・ワークキャンプでは児童養護施設にてボランティア活動を行った。言葉が通じなくとも“心”が通じ合う瞬間を体験し、人と人とのつながりの大切さを改めて実感した。

実際の社会と触れる

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻

高良 百花 KORA Momoka
小町 帆香 KOMACHI Honoka
武田 萌音 TAKETA Mone
渡邉 凜 WATANABE Rin

渡辺ゼミの合宿にて仲間と。前列左から2人目小町 、後列左から 高良・渡邉、4人目武田

横断的な学びを通して地域コミュニティに興味を持ち、西荻窪での活動に参加した。その中で見つけた地域が抱える課題を私たちが学んできた「人間中心設計」の考え方を用いて解決すべく、卒論として取り組んだ。専門家の方からのお話や地域連携の場への参加を通して社会との関わり方を考えたことは、社会人になる上で貴重な経験になったと感じている。

学びの転機と挑戦

数理科学科 数学専攻

木之下 ひより
KINOSHITA Hiyori

新國ゼミの仲間と熱海旅。筆者は左から2人目

3年次に国際社会学科から転学科した。新國亮先生のゼミに所属し、特に興味を抱いた結び目理論を学んだ。少人数のゼミでは分からないことをその場で気軽に議論でき、非常に有意義な時間であった。このような学びの場があったからこそ志望する大学院への進学を実現できたと実感している。転学科試験から大学院入試に至るまで常にサポートしてくださった新國先生や、4人のゼミ仲間への感謝を忘れず、進学後は幾何学をさらに追究していきたい。

多視点からの深い探究

数理科学科 情報理学専攻

高田 遼子 TAKATA Ryoko

理論物理研究室の同期と尾田先生と。筆者は左から2人目

物理や数学、プログラミングといった自身の専攻する授業だけでなく文系の授業や学芸員課程も履修したことで、文理隔てなく幅広い視野を持つことができた。また、研究室では興味のある分野の専門家を招き講演していただくことで、自分にとって興味のあることを探究する楽しさを知ることができた。この4年間の経験を生かして、今後も幅広い視野やさまざまな視点を持ち、興味のあることをとことん探究していきたいと思う。

学びを終えて　大学院修了生のメッセージ

「自己をめぐる問い」に答える

人間科学研究科 人間文化科学専攻 博士前期課程（哲学・思想文化分野）

小暮 菜月 KOGURE Natsuki

お世話になった大谷弘先生と

哲学とは、「自己をめぐる問い」であるということをつくづく実感させられた2年間であった。私はウィリアム・ジェイムズにおける意志と感情について研究する中で、自分がどう生きたいのかということを言語化することができた。就職活動と研究との両立が難しく、思うように研究が進まないことが多かったが、無事に修了することができたのは指導教員の大谷弘先生をはじめ私に関わってくださった全ての方々のおかげである。非常に恵まれた環境で学部と大学院の6年間を過ごせたことは、とても幸せであった。お世話になった方々にこの場を借りて感謝の言葉を述べたい。

6年間の学びに感謝を

人間科学研究科 人間社会科学専攻 博士前期課程（グローバル共生社会分野）

皆川 幸希 MINAGAWA Saki

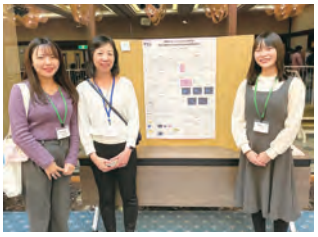
研究室の同期と。筆者は右下

修士課程では、約50年間にわたる日本のパンダ報道を通じて日中関係を分析した。学際的な大学院の講義では、学部時代よりも深い専門知識を得るとともに社会科学分野の新たな視点を築くことができた。日常の興味や疑問を出発点に研究した経験や、その過程で得られた知見は大きな財産である。このような貴重な経験ができたのは、いつも親身に指導してくださった家永真幸先生をはじめ、本学での学びを支えてくれた家族や周囲の皆さまのおかげである。この場を借りて深く感謝の意を表したい。社会でも本学で得た知識と経験を生かし、さらに成長していきたいと思う。

充実した環境に感謝して

理学研究科 数理科学専攻 博士前期課程（応用数理学分野）

西田 里桜 NISHIDA Rio



加藤由花先生、研究室の同期と。筆者は左

東京女子大学での学生生活は、整った環境と学びの機会に恵まれ、充実した時間を過ごすことができた。大学院では、シミュレーション環境に応じた適切な群衆モデルの選択をテーマに研究を行い、試行錯誤を繰り返しながら新たな知見を得た。学会発表は初めての経験で、学びとともに自信につながった。指導教員の加藤由花先生には親身で熱心なご指導をいただき、心より感謝を伝えたい。また、共に励まし合った同期の存在は大きな支えとなった。この6年間で得た学びを糧に、これからも成長を続け、社会に貢献できるよう努力していきたい。

学びは続く

人間科学研究科 生涯人間科学専攻 博士後期課程（認知社会適応領域）

麻野井 千尋 ASANOI Chihiro

お世話になった小田浩一先生と。筆者は右

私は関節に取り付けた点の動きから作成したPoint Light Walkerという動画像を用いて、人がどのような動きの情報から相手の性別を読み取れるか研究を続けてきた。他大学の修士（博士前期）課程修了から11年後、紆余曲折を経て東京女子大学の博士（博士後期）課程に入学した。指導教員の小田浩一先生は常々「自分も学び続けるという意味では一学生（Student）である」と仰っており、指導者と学生という壁を作らずフラットに議論することに重きを置いていた。議論が白熱した際の小田先生の楽しそうな姿から研究者や教育者として根幹となる基本姿勢を学んだ。東京女子大学での学生生活は一区切りとなるが、私の学びは生涯続く。このような環境を与えてくださった東京女子大学の先生方、スタッフの皆様に心から感謝する。

博士後期課程修了者―博士論文

人間科学研究科 生涯人間科学専攻 博士後期課程（認知社会適応領域）

麻野井 千尋 ASANOI Chihiro

Point Light Walkerから知覚されるジェンダーと性別に関する研究―実験心理学と機械学習を用いた検討―

2024年度 各賞受賞

◎光明照子賞

国際英語学科

国際英語専攻 **北山 朋花**

人文学科

哲学専攻 **阿相 伶**
日本文学専攻 **市川 日奈美**
歴史文化専攻 **米澤 文香**

国際社会学科

国際関係専攻 **浅野 灯々希**
経済学専攻 **清水 理子**
社会学専攻 **西垣 咲良**
コミュニティ構想専攻 **小林 桃子**

心理・コミュニケーション学科

心理学専攻 **矢野 鈴果**
コミュニケーション専攻 **大谷 陽奈**

数理科学科

数学専攻 **鈴木 莉奈**
情報理学専攻 **佐伯 郁花**

◎松村緑賞

論文賞

大塚 優月 人文学科 日本文学専攻
『仁勢物語』研究

◎比較文化研究所賞

塩谷 亜紗子 国際英語学科 国際英語専攻
A Comparison of Taste Expressions Between Japanese and English

内山 真利花 人文学科 哲学専攻
Vtuberとはどのような存在か

市川 日奈美 人文学科 日本文学専攻
島村抱月論
―小説における女性像の変容―

山﨑 真珠 人文学科 歴史文化専攻
女性からみた昭和の日本社会
―留学経験による視点の変容―

山田 百結 国際社会学科 国際関係専攻
日韓の貞操観念
―「からゆきさん」と朝鮮人「慰安婦」―

柳沢 はるか 国際社会学科 経済学専攻
貨幣価値に基づくユーロ圏内格差の分析

長田 みなみ 国際社会学科 社会学専攻
働く人の長期休暇
―西洋にみる長期休暇普及の背景―

大森 愛 心理・コミュニケーション学科 心理学専攻
国際結婚家庭の子どものアイデンティティと父親の子育て
―母親の子育てと比較して―

◎女性学研究所賞

木村 瑞希 国際英語学科 国際英語専攻
Bringing Ballroom to the Mainstream: Seeking Balance between Empowerment and Appropriation

相馬 詠美 人文学科 哲学専攻
「外見的に美しくなろうとする事」を哲学する

大原 陽果梨 人文学科 日本文学専攻
少女漫画のヒロイン研究
―『花とゆめ』における作品の傾向とヒロインのビジュアル分析―

米澤 文香 人文学科 歴史文化専攻
近世イギリスにおける異性装の流行：ダブレットに着目して

北野 綾子 国際社会学科 国際関係専攻
女性の性的魅力とジェンダー観

春日 彩子 国際社会学科 社会学専攻
雇用の柔軟化・流動化と労働生活の安定性
―メトロコマース事件から見る同一労働同一賃金の実現に向けて―

越野 莉多 国際社会学科 コミュニティ構想専攻
空間とセクシュアリティ
―学校空間における性的マイノリティの体験と困難―

轟 若奈 心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻
美容医療広告におけるネガティブアプローチに対する評価とその効果

TWCU OG TALK ✦ 卒業生インタビュー ✦ Vol.15

卒業後も学び続け、 仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、
ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、
そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

番組制作に生きる、大学で得た「柔軟に考える力」「相手を尊重する考え方」

日本放送協会(NHK)
岸 千晶さん
KISHI Chiaki
2020年現代教養学部人間科学科言語科学専攻卒業。Gavin ゼミ。同年より福岡放送局制作技術部に配属。2024年よりメディア技術局コンテンツテクノロジーセンターコンテンツサービスグループ 照明にて現職。

大学卒業後は日本放送協会（NHK）に入局し、音楽番組から情報番組、ドラマ番組などの制作に携わっています。現在は渋谷の放送センターで音楽・情報番組を中心に照明業務を担当しています。

大学時代、テレビ東京でフロアディレクターのアルバイトをしたことをきっかけに、放送局への就職を志望しました。さまざまなインターンシップを経験しましたが、中でも他局に比べ、社員が直接制作現場に携わることができる環境を持つNHK技術部に興味を持ち、就職。NHKは文系学生でも技術部採用を受けられる数少ない局ですが、採用後に教育や研修で基礎からしっかりと教えてくれるため、安心して入局できました。入局して丸4年間は福岡放送局制作技術部に配属され、ジャンルを問わずテレビ局制作の基礎を学びながら、緊急報道中継やスポーツまで、数多く携わりました。以前は転勤にマイナスなイメージを持っていましたが、縁もゆかりもない土地が今では第二の故郷となるほど、さまざまな経験ができたことは自身の財産になっていると実感しています。

放送業界で働くことの魅力は、番組を通じて視聴者と感情を共有できるところにあります。また、家族やお世話になった方々に、電波を通して自分の携わった仕事の成果を伝えられる点でも大きなやりがいを感じています。特に、渋谷の放送センターに異動後、幼い頃から見ていた紅白歌合戦に初めて携わったときは、いつも観てくれている人はもちろん、普段観ない人も私が携わるということで番組を視聴してくれたと聞き、すごくうれしかったです。

受験生の頃は、将来やりたいことが決まっていませんでした。そのため、幅広い分野を学べる東女の中でも、文理の垣根を越えた学びがかなう言語科学専攻へ進学することにしました。教授と学生の距離が近く、どんなことも親身になって相談し合える環境で、大切な友達にも出会うことができました。

東女は、自由と積極性を大切にする場所です。大学でのさまざまな経験と、そこで得た「物事を柔軟に考える力」は、今の仕事に生かされています。そして、どんなときも相手を尊重して行動する姿勢は、大学時代身近にあった「SS精神※」によるものだと今では感じています。

4月からはドラマ番組に携わる予定です。新しく学ぶことも多くなりますが、今までの経験を生かして取り組んでいきたいです。ジャンルを問わず、幅広く経験させてもらえる職業はそう多くはありません。そのことに感謝しつつ、これからも照明業務に携わっていきたいと思います。

後輩の皆さんも、ぜひ自身のやりたいことを信じて進んでください。もちろん、やりたいことがなくても、焦らずに自分のペースで進んでみてください。大学での経験は、必ず将来の助けになります。

※「Service and Sacrifice(犠牲と奉仕)」の略。キリスト教の精神を表す言葉で、東京女子大学が考えるリーダーシップを示したもの。

音楽番組『Venue101』で生放送照明オペレーション対応中の筆者（中央）

就職内定者 INTERVIEW

卒業を迎える４年生に、
自身の就職活動について振り返ってもらいました。

４年間の経験を糧に

人文学科 歴史文化専攻 4年
安本 葵 YASUMOTO Aoi

人事院（国家公務員一般職）に内定

私は公務員試験を受験し、人事院に内定を頂きました。2年生の秋から民間企業を含めて幅広く説明会に参加し、「ここで働きたい」という強い想いが長期的な就職活動の原動力となりました。人事院は、さまざまな現場で働く公務員を採用から退職まで支え続けられること、小規模な組織だからこそ自身の役割に誇りを持てると感じたことが決め手となりました。

筆記試験では法学や政治学の知識が中心となるため、慣れない分野に苦戦して試験前は毎日のように大学図書館に通っていました。一方で、面接では大学での学びについて詳細に問われ、知識だけではなく経験や考え方を見られていると感じました。

就活は正解が一つではないという点で、大学での学びに似ていると思います。その中でもキャリア・センターでのイベントや説明会を通じて、今まで知らなかった自分に気付くことができました。私の周りでは公務員志望者がおらず不安が募ることもありましたが、個別キャリア・カウンセリングを通じて些細な疑問も解消できたことで、安心して就活に臨むことができました。特に公務員試験では面接の機会が少ないため、満足がいくまで何度も練習ができたことは大きな安心材料となりました。

これからは社会人として、４年間で培った価値観や探求心を忘れずに頑張りたいと思います。

理想の社会人になるための一歩目

国際社会学科 国際関係専攻 4年
友清 聖 TOMOKIYO Hijiri

アクセンチュア株式会社に内定

「人に深く向き合い、笑顔の創造に携わりたい」という想いを胸に就職活動を進め、ITに強みを持つ総合コンサルティング企業から内定を頂きました。デジタル分野は今後、人々の生活を豊かにし、笑顔の基盤をつくる重要な分野になると考えています。そのため、ITの知識を一から学び、対話を通じてさまざまな課題を解決するために、ITコンサルタントへの挑戦を決めました。

就職活動では「一人で抱え込まずに相談すること」が非常に大切でした。幾度も悩むことがありましたが、大学のキャリア・センターに通い、進路相談やES・面接対策など、多岐にわたってサポートしていただきました。悩んだ時に、その都度相談できる存在が近くにいてくださったことが非常に心強かったです。また、企業や自分自身に対して正直に向き合うことも重要でした。自分の気持ちに嘘をつかないよう、就職活動の終盤に再度自己分析を行い、自分が何をしたいのかを妥協せずに考え続けました。周囲と比較せず、自分のペースで地道に就職活動を行った結果、納得して就職先を選択することができました。これから先も選んだ道で、多くの人に笑顔と幸せを届ける社会人になるために励んでいきたいと思います。

有名企業400社実就職率ランキングで 11年連続私立女子大トップ3入りを達成

東京女子大学は「2024年有名企業400社実就職率ランキング」（大学通信）において、全国私立女子大2位（全国私立大学22位）を獲得しました。今回で同ランキングの11年連続私立女子大トップ3入りを達成し、高い就職実績と充実したキャリア教育・キャリア支援を維持してきた結果となりました。トップ3入りを11年継続しているのは、本学のみとなります。

2024年有名企業400社
実就職率ランキング
（大学通信）

プレスリリース

ゼミの小窓

第 14 回

医療・社会・ケア関係

国際関係専攻 玉井ゼミ

近代医療が教えてくれないこと

大事なテストの前日。頭が痛い、関節が痛い、ボーっとする。体温は38度。さて、あなたはどうするでしょうか。解熱剤を飲む、病院に行く、栄養のある食事を摂る……。心や体が「異常」な状態に陥ったとき、私たちはしばしば、近代医療の手を借りて治療を試みます。近代医療は、「異常」を引き起こす原因（ウイルスや病原菌）を見つけ、介入します。その効果は絶大です。だからこそ私たちは、人間の体や心の問題を、医療の問題として当たり前に捉えます。

しかし、そうした病いの捉え方や対処の仕方は、社会や文化に応じて異なります。東アフリカのヌアー人の社会では、病いや不幸を、妖術を使って説明していました。「Aさんが切り株につまずいて怪我を負ったのは、妖術のせいだ」と主張するわけです。「迷信だ」と思うでしょうか。では私たちの社会では、病いや不幸を、どのように説明するでしょうか。近代医療は「あなたが38度の熱が出たのは、〇〇ウイルスが原因だ」などと説明してくれます。しかし、「なぜ他でもないあなたが」「なぜよりにもよってテストの前日という大事なときに」不幸に見舞われたのでしょうか。近代医療は、こうした疑問に答えてくれません。それに対してヌアー人の社会では、こうした疑問にこそ、妖術を用いて答えてくれます。ヌアー人の社会は、病いや不幸とともに向き合う卓越した術を備えているのです。

社会的な存在としての人間

このように考えていくと、人間の体や心の問題は、人間を生物学的な存在として捉えるだけでは対処しきれないことが分かります。なぜなら私たちはさまざまな人とつながり、関わる、社会的な存在でもあるからです。例えば病気で苦しんでいるとき、両親や友人の優しい一言が、気持ちを楽にしてくれるかもしれません。自分が慢性の病気を抱え不安な気持ちになったとき、同じ病気を抱えている人とつながり、経験を共有することで、病気と向き合う気持ちを持てるようになるかもしれません。こうしたつながり、そしてそこで生まれるケア関係は、病いに対処していく上で、とても重要となります。

ケア関係を探求する

私のゼミでは、こうした誰もが抱える病いと人々のケア関係について考えることを一つのテーマにしています。これまで検討したテーマは、例えばアレルギー、アトピー性皮膚炎、糖尿病、老化、月経、妊娠、HIV/AIDS、美容整形、薬剤耐性、新型コロナウイルス感染症、ジカ熱、トラウマ、エナジードリンクなどなど、実に多岐にわたります。いろいろなテーマで、世界各地の事例を持ち寄り、みんなで議論します。人間は他者と関わり合い、ケア関係を形成する存在であることを前提に、さまざまな人が共生する社会を探求しています。

入門コンテンツ

『ヴィータ 遺棄された者たちの生』
（みすず書房、2019年）
ジョアオ・ビール 著／桑島 薫・水野 友美子 訳

ブラジル南部にある保護施設「ヴィータ」。物語の主役は、ひとりの女性カタリナ。家族、地域社会、政府が生産性という基準で人間を選別し「遺棄」するメカニズム、そしてカタリナ自身の言葉から描かれる人間の生が明らかとなります。

玉井 隆 TAMAI Takashi
国際社会学科 国際関係専攻 准教授
東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。文化人類学、アフリカ地域研究が専門。在ナイジェリア日本大使館専門調査員、東洋学園大学准教授等を経て現職。NPO 法人アフリカ日本協議会共同代表も務める。

第39回「女性史青山なを賞」受賞作決定

女性史研究に先駆的業績を残された故青山なを氏のご遺贈による基金に基づき、
東京女子大学女性学研究所より1986年に創設された「女性史青山なを賞」。
39回目となる今回は1作品に決定いたしました。

講評執筆者
第39回「女性史青山なを賞」学外選考委員／
国立歴史民俗博物館 名誉教授
横山 百合子 YOKOYAMA Yuriko

受賞作

平井 和子 著
『占領下の女性たち 日本と満洲の性暴力・性売買・「親密な交際」』
（岩波書店 2023年6月）

本書は、戦時期から敗戦・占領という激動の時期に振るわれた性をめぐる実相を解明し、「歴史の穴の最も深い場所」で沈黙を強いられてきた女性たちの尊厳の回復に寄与する、女性史青山なを賞にふさわしい力作である。

本書の達成として第一に注目すべきは、危機に際して、女性を「守るべき女性」と「差し出すべき女性」に二分化する国家と社会――すなわち娼婦と貞婦（乙女）、堕落と犠牲といった女性の分断の歴史を鋭く指摘し、その姿を明らかにした点である。「差し出された女性」たちや、朝霞や熱海に生きたパンパンと呼ばれる女性たちの息を呑むような生活やその思いをはじめて丁寧に描き出した本書は、「性の防波堤」とされた女性を存在しないものとしてきた従来の歴史学への痛烈な批判の書ともいえよう。

二つめに、本書は、日記資料、戦記、絵画など、膨大な文献史料をふまえた上でのオーラル・ヒストリーの方法的深化とその実践という点でも注目される。女性たちが国家や共同体のために自ら「性接待」を引き受け犠牲となったとする「自発性神話」や、性暴力を免責する「男性神話」は、今なお日本社会を蝕み続けている。これにたいして本書は、聴き手と語り手の関係性の「危うさ」をもふまえた「対話的な構築主義」ともいうべき手法を駆使することによって、「自発性神話」の虚構と「男性神話」の背後にある家父長的構造を抉り出し、女性たちの名誉を回復するものとなった。

このような優れたオーラル・ヒストリーは、過去の一時点の実態解明にとどまらず、人が語り始めるまでの長い歴史的時間のもつ意味を明らかにするものでもある。例えば、子ども時代に満洲からの引揚げを経験した北村栄美氏の聴き取りからは、子どもの持つ生命力、「集団自決」を生んだジェンダー構造、中国人「匪賊」の姿から見えてくる日本の侵略性、さらには、“生け贄”とされた女性を侮蔑する“守られた女”たちの内面の屈折をも見通す、栄美氏の人間と社会への洞察の深まりが描き出されていく。引揚げの経験に的を絞りながら、一人の女性の長い人生を浮かび上がらせる見事な叙述といえよう。

本書を通して読者が受け取る問いは、おそらく一様ではない。しかし、多様な問いのなかで、女性の分断を克服する途はどこにあるのかという本書を貫く真摯な問いを避けて通ることはできないであろう。私自身もその問いを心に刻みつつ、多くの読者に本書が届くことを願っている。

第40回「女性史青山なを賞」2025年度候補作を公募します

本賞は、女性史研究の奨励的意義および女性史に関する啓発的意義や、独創性・論理の一貫性・実証性の各要素を満たす候補作から、選考、授与されるものです。

対　　象　日本語で著され出版された女性史研究の単行本。（著者の年齢・性別・国籍は不問。ただし2024年1月1日から2024年12月31日までに公刊されたものに限る）
副　　賞　20万円
締　　切　2025年5月16日（金）16時
発　　表　2025年10月予定
応募方法　①著者名②書名③発行所④発行年月日⑤推薦者の氏名・所属・住所・電話番号・メールアドレスをご記入の上、irowg@gr.twcu.ac.jpまでお送りください。
（自薦、他薦を問いません。また可能な場合は、推薦図書のご寄贈をお願いします）
お問合せ　irowg@gr.twcu.ac.jp
（女性学研究所内「青山なを記念基金運営委員会」）

MAR 31, 2025
692nd ISSUE

TOPICS

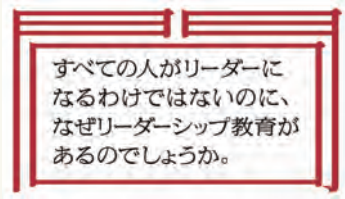
「第2回・第3回 Bridging CLIL and Liberal Arts フォーラム」開催

2024年10月30日(水)、第2回 Bridging CLIL[※1] and Liberal Artsフォーラムをオンラインにて開催し、本学のKimberly Klassen准教授がコンテンツおよび言語総合学習コースにおける語彙のテーマについて講演しました。本学9名、エディンバラ大学1名、上智大学3名の教員が参加しました。同年11月20日(水)は第3回フォーラムとして、上智大学のグローバル教育センター所属 李ウォンギョン博士をお招きしてCollaborative Online International Learning(COIL)について講演いただきました。海外の学生とつながるためのプラットフォーム"Padlet"を使用した国際関係論の授業など、COILによる授業の実例を示していただきました。本学3名、ICU 2名、上智大学1名のCLIL、EMI[※2]、またはリベラルアーツの学際的なアプローチによる教育の実践者が参加しました。

※1 内容言語統合型学習　※2 英語で専門科目を教えること

問いプロジェクト動画を制作しました

社会の中にある問いを多様な視点から考えていく「問いプロジェクト」の一環で、動画を制作いたしました。2月12日(水)公開の第一弾「現代教養学部からの問い」では、小田現代教養学部長と卒業生3名に「リーダーシップ」について語り合っていただきました。本学ならではの教員との距離の近さや、卒業生一人ひとりの学び続ける姿勢などが伺われ、リベラルアーツで培われる「問う力」が伝わる動画となりました。本プロジェクトでは引き続き、2025年度に新設される経済経営学科、社会コミュニケーション学科、情報数理科学科からの問いについても動画公開を予定しています。



現代教養学部からの問い

小田学部長と卒業生の皆さん

退職にあたって

杜のフィールドワーク

国際社会学科 コミュニティ構想専攻 教授
伊奈 正人 INA Masato

「日本一私語が少ない」と言われた大学の校名を伏せたバス停、手作りの杜、質素な式典、使い古された学内便の封筒を目の当たりにし、着任の幸福に浸るも束の間、学科の古参に上手を言うと「最近は先生方も変わられましたね」と見透かされ、ミスをすると「昔の事務なら規程集を読んで出なおせと言われたところです」と一喝されました。そんな粗忽者に、フィスク大学で学んだバディ教員は、「気を付けないと留学は怖いからね」と微笑み、「高校の教科書を丁寧に読んでいないとこの大学の入試問題は解けないんだ」といった謎の問答を続けました。また、「みんな気付かれないように気を遣っていますよ」とヒントを一言くださった方もいました。おかげで教養の品格(イケズ)を少しだけ理解できた気がします。すべての教えに感謝いたします。(BGM　矢野顕子『また会おね』)

各種開催報告

本学の取り組みやイベントのレポートを大学公式サイトに掲載しています。ぜひご覧ください。

内田塾ビジネス実践講座 for Women
（日経ビジネススクール共催）
2024年8月31日（土）～11月30日（土）のうち全4回開催

「わが国の財政について
～不都合な真実を正視し、打開する～」
－矢野康治元財務省事務次官講演会
2024年12月2日（月）開催

第6回ゲストフォーラム
『フィンランドにおけるワーク・ウェルビーイング』
駐日フィンランド大使（タンヤ・ヤースケライネン閣下）講演
2024年10月18日（金）開催

東京女子大学×ジェイアール東日本
都市開発「産学連携プログラム」
西荻高架下OPEN LABO
2024年12月18日（水）開催

2024年度 秋の連続講座『ようこそ！AIの世界へ』
（（株）NTTデータグループとの連携企画）
2024年10月24日（木）～11月21日（木）のうち全5回開催

2025年度 学年暦

2025年度現代教養学部学年暦および大学院学年暦が決まりました。本学公式サイトよりご覧ください。

学年暦・キャンパスカレンダー

謹弔

お悔やみを申し上げます。

山中 信夫 先生
2024年11月17日ご逝去　98歳

1973年4月 文理学部 一般教育（文学）教授就任
1994年3月 文理学部 一般教育（文学）定年退職
文理学部長などを務められた。

山中先生を偲んで

国際英語学科 国際英語専攻 教授　**溝口 昭子** MIZOGUCHI Akiko

山中信夫先生は1973年より本学の文理学部英米文学科の教授として活躍され、18～20世紀の英国作家をご専門とし、多くの業績を残されました。多くの役職を歴任され、特に1985年から4年間、学部長として見事な行政能力を示されたと伺っています。ただ当時、相当ご苦労があったのではないでしょうか。実は1988年に、学部生だった私は先生に学部長室で卒業論文の指導を受けていたのですが、ある衝撃的な出来事がありました。文化祭の日に伺ったところ、先生が胸を抑えて苦しんでおられ、にもかかわらず「時々こうなるけど大丈夫。」と動転する私を落ち着かせ、発作（?）がおさまると、パイプに火をつけて一服し（!）、「たこ焼きでも食べようよ。」と、何事もなかったかのように学園祭のたこ焼きを食べながら丁寧に論文の指導をしてくださったのです。のちに判明した原因は胃潰瘍でした。私が本学の教員になってから大学のクリスマス祝会でお目にかかった際には、私を見つめ「ずっと謝りたかったんだが、溝口さんが学者になるとはあの頃思わなかったから、実にいい加減な論文指導をしてしまったんだ。」と思いがけないお詫びの言葉をくださいました。思い出されるのは、穏やかで誠実で、でもどこか個性的な先生のお姿ばかりです。心よりのご冥福をお祈り申し上げます。

REPORT

クリスマス献金報告

皆さまからお献げ頂いたクリスマス献金は以下の団体に送金致しました。ご協力ありがとうございました。

総額	343,000円
送付先	
小羊学園	50,000円
カレーズの会（アフガニスタン医療支援）	50,000円
日本聾話学校	50,000円
アジアキリスト教教育基金（ACEF）	50,000円
チャイルド・ファンド・ジャパン	50,000円
能登半島地震災害義援金（日本赤十字社）	43,000円
山岳少数民族支援団体メーコック財団	50,000円

NOTICE

遺贈・相続財産による ご寄付について

■遺贈によるご寄付について

本学の遺贈による寄付制度はあらかじめ作成した遺言書に基づき、逝去されたときに財産の一部を本学に寄贈いただき、教育研究活動の財源として活用させていただくものです。相談窓口として、信託銀行をご紹介いたします。なお、本学にご遺贈いただいた財産に相続税は課税されません。

■相続財産のご寄付について

財産の相続または遺贈を受けられた方が、本学に当該財産をご寄付された場合、相続税法上の優遇措置を受けることができます。詳細は、事務局へお問い合わせください。

問い合わせ先

大学運営部総務課（寄付担当）　TEL：03-5382-6340

REPORT

ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

NOTICE

2024年度異動

●定年・定年扱退職（2025年3月31日付）

［教育職員］

伊奈 正人　国際社会学科 コミュニティ構想専攻 教授

［事務職員］

寺沢 敦子　大学運営部 管財課 課長

池田 恵子　教育研究支援部 情報メディア課 課長

水野 直子　教育研究支援部 学務課 課長補佐

●退職（2024年9月5日付）

Schwartz, Benjamin　英語センター 嘱託講師

OTHERS

広報誌『VERA』定期購読のご案内

東京女子大学広報誌「VERA」は、学内配布の他、学部在学生の保証人の皆様、定期購読をお申し込みくださった方にお送りしています。定期購読をご希望の場合は、下記の通りお手続きくださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

●年間購読料

1,300円（2025年度は年3回、6月、12月、3月発行予定、送料込）

●申し込み方法

郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、右記口座にお振り込みください。通信欄に「広報誌購読料」と記載の上、住所、氏名、電話番号、および卒業された学科・専攻名、卒業（修了）年をご記入ください。

送金先（ゆうちょ銀行）

口座記号・番号：00130- 5- 34872
口座名義：学校法人 東京女子大学

＊申し込みは随時承っておりますが、年度1号からご購読をご希望される場合は、2025年4月25日（金）までにお振り込みください。
＊期購読は年度単位（4月から翌年3月まで）となっております。
年度途中にお申し込みの場合は当年度第1号からのバックナンバーもお送りいたします。
＊記事内容は東京女子大学公式サイトでも公開しています。

同窓会からのお知らせ

卒業される皆さまへ
ご卒業おめでとうございます。

ご卒業後4月から、皆さまは同窓会の会員となられます。
同窓会には、本部の他、国内53・海外7の支部があります。
同窓会主催行事については、ホームページをご覧ください。
また、改姓・住所変更などの場合は、
ホームページの専用フォームよりお知らせください。
メールでも受け付けております。

Tel. 03-3395-4448
Fax. 03-3395-0084
https://www.twcu-alumnae.jp/
E-mail：office@twcuaa.jp
X（旧Twitter）：@vera_twcu
開館日：火～土 9時～17時 祝日休館
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-23-11
同窓会（72年館）はグラウンドの向こう側に見える白い建物です。

同窓会
ホームページ

同窓会は、同窓生の親睦をはかるとともに、母校を支援するために活動しています。

年間の主な行事・イベント

●定時総会　2025年6月14日（土）開催
同窓生ならどなたでもご出席いただけます。

●節目の学年会
卒業後10年・20年・30年・40年の会、卒業後50年お花見の会
※該当学年の皆さまには、同窓会から案内をお送りします。住所を変更する場合はお知らせください。

●園遊会（Homecoming Day）　2025年4月29日（火・祝）

●講座および講習会
前期/後期キリスト教講座、継続講座（パソコン・いけ花・英会話）

●観劇など　歌舞伎、文楽、ミュージカル、コンサート

●情報発信　『同窓会会報』（毎年9月）、「荻窪だより」（3月、9月）、公式ホームページ、公式X（旧Twitter）、メールマガジン

●オリジナルグッズ制作販売
クリアファイル（各種）、VERAバッグ、Tシャツ、オリジナル印傳グッズなど

●貸室（72年館）
クラス会、勉強会、発表会、音楽会、結婚披露宴などにご利用ください。

表紙の場所

講堂。1台のオルガンをチャペルと講堂の両方で聞けるよう、チャペルと講堂を組み合わせた建築として施工されました。設計は現チェコの建築家アントニン・レーモンドによるもので、キャンパス内には同じく登録有形文化財に登録されたレーモンド作品が全部で7棟あります。木の温かい質感が生かされた講堂では、入学式、卒業式、講演会などが行われ、秋には大学祭（VERA祭）の会場にもなっています。

竣工年：1938（昭和13）年
設　計：アントニン・レーモンド
■文化庁登録有形文化財
■1992年（平成4）年BELCA賞（ロングライフ・ビルディング部門）受賞

VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙　第4章8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

Web アンケート

『VERA』に関するご意見、
ご要望をお寄せください。
QR コードよりご入力ください。

VERA

第3号／2024年度

Contents

02 SPECIAL FEATURE
東京女子大学卒業式 学長告辞
ー東京女子大学の卒業生であるとはー
……森本 あんり

04 Students
学びを終えて 学部卒業生のメッセージ
……丸山 綺月、水澤 華、下村 澄青、亀井 安紗、中山 綾乃、奥田 万葉、竹内 ひな、泉 里奈、大森 愛、高良 百花、小町 帆香、武田 萌音、渡邉 凜、木之下 ひより、高田 遼子

06 Students
学びを終えて 大学院修了生のメッセージ
……小暮 菜月、皆川 幸希、西田 里桜、麻野井 千尋
博士後期課程修了者ー博士論文／
2024年度 各賞受賞

08 Career
TWCU OG TALK vol.15……岸 千晶さん
就職内定者INTERVIEW／
有名企業400社実就職率ランキングで
11年連続私立女子大トップ3入りを達成

10 Studies
ゼミの小窓 第14回……玉井 隆
第39回「女性史青山なを賞」受賞作決定
平井 和子 著『占領下の女性たち
日本と満洲の性暴力・性売買・「親密な交際」』
……国立歴史民俗博物館 名誉教授 横山 百合子

12 TOPICS
「第2回・第3回Bridging CLIL and Liberal Artsフォーラム」開催／
問いプロジェクト動画を制作しました／
退職にあたって……伊奈 正人／
各種開催報告／
2025年度 学年暦／
謹弔

14 NEWS
クリスマス献金報告／
遺贈・相続財産によるご寄付について／
ご支援へのお礼／2024年度異動／
広報誌『VERA』定期購読のご案内／
同窓会からのお知らせ

2025年3月31日発行
東京女子大学
発行：東京女子大学　編集：広報委員会
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1　TEL：03-5382-6476（広報課）
公式サイト